

# 平成 29 年度金沢大学資料館事業報告

The Activity Report of Kanazawa University Museum in 2017

金沢大学資料館館長 奥野正幸

Masayuki OKUNO

## 1. はじめに

平成27年度、28年度、金沢大学資料館（以後資料館と記す）では、展示室における企画展、特別展に加えアウトリーチ展を開催してきた（文献1、2）。平成29年度も、同様に、計6回の展覧会を実施した。特に、平成29年9月30日・10月1日の2日にわたって、金沢市で開催された「全国藩校サミット—金沢大会」（文献3）に合わせて、資料館では、特別展「加賀藩校扁額～明倫堂・経武館～」を開催した（文献4）。さらに、特別展に合わせて、特別講演会を開催した。また、この特別展に先立って、6月29日付けで「加賀藩校扁額」が、金沢市の有形文化財の指定を受けた。また、昨年度に続き、学外2機関との共同での展覧会を開催した。このほか、資料館紀要の発行や資料館だよりも刊行した。また、資料館のもう一つの大きな機能として、文書館としての機能も有しており、歴史文書等などのリファレンス活動も実施した。

本稿では、平成29年度の資料館展示活動を中心に、その他の活動についても報告し、多様な資料館活動を紹介する。

## 2. 平成29年度資料館事業の特徴

ここでは、平成29年度資料館活動等の特徴的な事業について簡単に述べる。先ず、重要な組織上の事項の一つに、資料館として初めての特任教員を採用したことを挙げる事ができる。平成28年度の金沢大学資料館関係の職員等は、館長（併任）、副館長（併任）、事務補佐員3名（資料館担当・学芸員1名を含む）、ほかに情報部職員のうち数名が資料館業務の補佐をしている状態であり、これらの人員で多くの展覧会を企画・実施し、リファレンス業務もこなしてきた。そこに、29年度から上記の特任教員を採用し、金沢大学埋蔵文化財調査センター（以後、埋文センターと呼ぶ）も併任であるが、金沢大学資料館としては重要な人材を得た。また、資料館と非常に関係の深い埋文センターの業務も兼務することで、資料館と埋文センターとの連携が容易になったことも将来に向けて非常に重要である。

次に、資料館の最も重要な収蔵品の一つであり、主要な常設展示品である加賀藩の2つの藩校「明倫堂」と「経武館」の扁額が、金沢市文化財保護条例に基づき、金沢市の重要な文化財として金沢市指定文化財（有形文化財・歴史資料）の指定を受けた。この条例は、金沢市の重要な文化財を保

護することを目的とする条例である。さらに、アウトリーチ展「お雇い外国人と石川の近代教育～ランバート、ホイットニー、ウィンの仕事～」を、資料館・北陸学院ウィン館・石川県立自然史資料館が共催で開催した(文献5)。このような他館との連携事業は、博物館において展示の幅を広げ、その来館者の対象を広げるために非常に有効であり、今後も継続して実施したい。

### 3. 平成29年度の展示活動の概要

ここでは、平成29年度に行った資料館の展示の取り組みについて報告する。資料館展示室では、平成29年度も常設展と同時に企画展・特別展を開催した。平成29年度も、多くの展覧会を開催し、資料館展示室の入場者数は、開館以来最高の8,990人を記録した。アウトリーチ展については、河北門での展示には9,447人、石川県四高記念文化交流館での展示には、3,041人の来場者を数えた。特に、展示室の入場者数は、10～12月に前年度の数字を大きく上回った。以下に、それぞれの展示等の概要と特徴を報告する。

#### 3-1 資料館常設展（資料館展示室）

平成29年度の常設展示は、基本的には平成27年度と大きく変わらないので、「平成28年度金沢大学資料館事業報告」(文献2)を参照いただきたい。

#### 3-2 コレクション展 2017：教材の博物館（資料館展示室）

最初の企画展として、平成29年4月5日から7月5日にかけて、「コレクション展 2017：教材の博物館」を開催した。コレクション展は、平成27年度から毎年開催され、資料館に收藏されている学術資料をコレクションごとに展示するものである。今回の展示は、教材資料のコレクションから厳選したものを展示した。金沢大学の前身校である旧制第四高等学校、石川県師範学校、旧制金沢医科大学等では、教材として、国内外の種々の貴重な資料を所有しており、現在資料館の貴重なコレクションとして收藏されている。特に、石川県師範学校には、郷土館と言われる博物館施設が設置されていて、その資料の一部も資料館が收藏している。

今回の展示では、これらの前身校の資料を中心に選定し、明治期から昭和初期にかけての豊かな教材コレクションを紹介した。主な展示資料は、旧制第四高等学校の教材の「法隆寺百万塔陀羅尼レプリカ」及びステレオスコープ、電気車、円錐鏡などの物理実験機器、石川県師範学校所蔵の歴代の九谷焼作家のあざやかな作風標本、旧制金沢医科大学の精緻な医学教示図「成医学校蔵版 人体局所解剖図」など多数の資料を展示し、多くの来館者があった。特に、医学教示図は、石川県文化財保存修復工房で修復されたばかりの資料であった。今回のコレクション展の入館者数は、2,235名であった。

#### 3-3 資料館所蔵の加賀藩校扁額2面が金沢市有形文化財に指定

資料館の最も重要な收藏品の一つであり、主要な常設展示品である加賀藩の2つの藩校である「明倫堂」と「経武館」の扁額が、平成29年6月29日に金沢市文化財保護条例に基づき、金沢市の重要な文化財として金沢市指定文化財(有形文化財・歴史資料)の指定を受けた。また、有形文化財の指定書の交付式が、平成29年7月31日に金沢市役所で行なわれ、金沢大学から、山崎光悦学長及び筆者が出席し、山野之義金沢市長から指定書の交付を受けた。



写真1 加賀藩校の扁額 明倫堂（左）、経武館（右）

### 3-4 金沢大学研究の顔2017 新学術創成機構展（資料館展示室）

この企画展は、昨年度に引き続き、新学術創成研究機構との共催で、金沢大学の研究力を紹介するために、平成29年7月11日から8月25日にかけて開催され、990名の入館者があった。昨年度のパネル中心の展示から実際に研究に用いられている実験機器（自動運転検証用の信号機など）や研究の成果物（有機材料で発電する曲がる太陽電池など）も展示し、より理解しやすく充実した展示となった。

### 3-5 特別展「加賀藩校扁額～明倫堂・経武館～」（資料館展示室）

この特別展は、平成29年9月1日から10月27日まで（その後、ホームカミングデイの開催に合わせて、10月29日まで延長して開催し、1,465名の入館者があった。）今回は、全国藩校サミット金沢大会（9月30日、10月1日）（文献3）の開催に合わせて、加賀藩藩校の「明倫堂」及び「経武館」に掲げられていた扁額（資料館所蔵）を中心にした展示を行った。前述のように、これらの扁額は平成29年6月29日付けで金沢市の有形文化財に指定されている。加賀藩校の成立、前田家関わった藩校、さらに、それぞれの扁額を揮毫した新井白蛾と前田土佐守直方などのテーマも設け、関連する貴重資料を石川県立歴史博物館、金沢市立玉川図書館近世史料館、前田土佐守家資料館から、借用し、幅広い展示を行った。また、藩校サミット2日目には、藩主をはじめ藩校ゆかりの方々約20名の入館があった。

「明倫堂」と「経武館」は、寛政4（1792）年に11代藩主前田治脩によって創設されている。これらの藩校に掲げられていた、扁額は横幅が3m近くあり、重量も100kgを超え、日本に実在する扁額の中でも最大級のものである。これらの藩校の当時の様子が鮮やかに描かれた金沢大学附属図書館所蔵の「加賀藩年中行事図絵」も展示された。さらに、「明倫堂」扁額を揮毫した明倫堂の初代学頭であった新井白蛾に関する資料「新井白蛾知行書」及び「新井白蛾小倉百人一首折衷本」（ともに、石川県歴史博物館所蔵）が展示され、「経武館」扁額を揮毫した前田土佐守直方については、「前田直方画像」（前田土佐守家資料館蔵）を展示し、前田土佐守直方の加賀藩での役割やその嗜好について説明を加えた。この他、前田家関わったいくつかの藩校や上田藩の「明倫堂」の扁額についても紹介した。この特別展の内容については、図録「加賀藩校扁額～明倫堂・経武館～」が資料館Webサイトに掲載されているので、参考にされたい。（文献4）



写真2 特別展ミュージアムツアーの様子

### 3-6 特別講演会「新井白蛾とその時代」(中央図書館AV室)

この講演会は、特別展「加賀藩校～明倫堂・経武館～」の開催に合わせ、平成29年10月23日に、特別展の展示にもご協力いただいた東京大学大学院人文社会系研究科教授の小島 毅先生を講師にお招きし、中央図書館AV室を会場に、「新井白蛾とその時代」と題して開催し、33名の参加者があった。明倫堂の初代学頭であり、朱子学者であった新井白蛾が古易の復興とその重要性を唱えていたこと、及び当時の儒学・易学の動向について、分かりやすくご講演いただいた。(文献6)

### 3-7 金沢大学美術教育専修同窓展 i-Acanthus Ars (資料館展示室)

平成8年から開催されている、金沢大学人間社会学校教育学類美術教育専攻の学生、教員及び卒業生による展覧会である。会場には、絵画、彫刻、デザイン、写真、工芸などの作品約30点が展示された。今回は、現役学生の作品についての解説、画材、制作、工程、作家プロフィールなどをまとめたリーフレットが、「博物館実習」を受講する学生によって作成された。この展覧会は、学内での卒業研究等の成果を紹介するもので、今後も引き続き他分野を含めて実施したい。平成29年11月1日から22日にかけて開催され、804名の入館者があった。

### 3-8 出張写真展「よみがえる城内キャンパス」(金沢城公園河北門)

本出張展示は、平成29年10月20日から11月2日にかけて開催された。この展示会は、金沢大学のホームカミングデイ(今回は平成29年10月27日)の開催に合わせて、例年開催している。今回は、開催期間中の2度の日曜日が、金沢マラソンの開催と台風の接近に重なったため、平成28年度より入館者数は減少したものの、14日間の展示で9,447人の入場者があった。河北門は、金沢城公園の人気スポットの一つであり、入場者の多くは観光客であると思われるが、県外からの入場者に、1994年まで金沢大学のキャンパスが金沢城公園内に置かれていたことを知らせる機会にもなっている。

### 3-9 学生企画展「バンカラ寮生類 ～金大寮史124年～」(資料館展示室)

学生企画展は、平成26年度から学芸員養成課程のまとめの実習として毎年開催されている。今年度は、第4回目で、平成29年11月29日から平成30年3月16日にかけて開催され、2,062名の入館者があった。この展示会は、学芸員養成課程受講生が企画・立案・資料収集から実際の展示まで

のすべてを手掛けた学生自身によるものである。今回の企画は、平成28年度末で閉鎖された金沢大学北溟寮に残された物品を収集するとともに、資料館に収蔵されている、前身校の三々塾及び時習寮の資料を加えて展示し、四高生（旧制第四高等学校生）・金大生（金沢大学生）の集団生活の様子を紹介し、学生宿舎の歴史と学生生活を各寮のキャラクターを登場させリアルに振り返る展示であった。特に部屋のドアに残された辞寮詩（寮を辞するあたっての詩）は、卒寮生の思いをあざやかに伝えるものであった。この学生企画展には、全国から多くの北溟寮OBが見学を訪れていた。

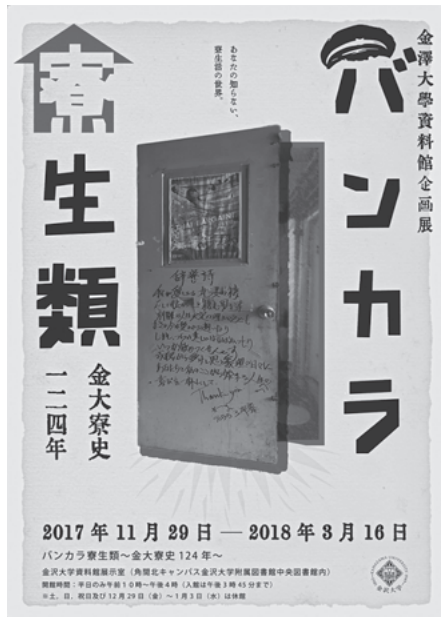


写真3 学生企画展ポスター

### 3-10 金沢大学資料館・北陸学院ウイン館・石川県立自然史資料館 共同企画展

「お雇い外国人と石川の近代教育 ～ランバート・ホイットニー・ウインの仕事～」  
(石川四高記念文化交流館多目的利用室1)

この企画展は、昨年度に続く他機関（北陸学院ウイン館・石川県立自然史資料館）との共同企画によるアウトリーチ展である。藩政時代から「明倫堂」・「経武館」といった藩校の伝統が息づいていた石川の地、そこで模索された近代教育の一端を担ったのはお雇い外国人であった。本展示会では、当時使用された教材等を展示すると共に、明治初期に石川の教育機関の発展に尽力した3人のお雇い外国人（ランバート、ホイットニー、ウイン）、にスポットを当て、その足跡ならびに功績を紹介した。この展示会は、平成30年1月19日から2月18日にかけて開催され、大雪にもかかわらず3,041人の入場者があった。（文献5）

### 3-11 金大資料館コレクション展2018:保存と修復」資料館展示室

このコレクション展は、平成30年度（2018）年度の春季企画展であるが、開会を早めて平成30年3月28日から開催した。この企画展では、副題にあるように資料の保存と修復をテーマとして展示した。展示の詳細については、平成30年度の事業報告に掲載する予定である。



## 4. その他の主な活動

平成28年度の事業報告（文献2）にあるように、資料館の活動は展覧会の開催にとどまらず、図書館としての機能も備え、今後も様々な事業を実施する必要性が出てくると思われる。以下に、平成29年度の展覧会事業以外の主要な活動の概略を報告する。

### 4-1 公文書の保管と閲覧業務

資料館では、金沢大学およびその前身校に関する公文書の収集保管事業（アーカイブス事業）を行っている。「公文書の管理に関する法律」（以下、公文書管理法と呼ぶ）が、平成23年4月1日に施行されたが、施行前に資料館に移管された第四高等学校等の公文書等の多くの貴重な文書を収蔵しており、これらの文書リストは「非現用文書データベース」として公開している。（この「非現用法人文書」とは、金沢大学において作成された公的記録類（法人化以後の法人文書、法人化以前の行政文書および前身校関係文書を含む）のうち、平成22年度末（2011年3月31日）までに保存期間が満了となったものを選別し、金沢大学資料館に移管されたものを指す。これらの文書資料に関する閲覧等の問い合わせへの対応（リファレンス）活動も行った。平成29年度の問い合わせ件数は、49件、総文書点数は66点であった。また、平成29年度時点で、資料館は「公文書管理法」に対応した「国立公文書館等」の指定を受けていないため、貴重な大学史資料が廃棄されることを防ぐために、保存期間が満了した法人文書から重要な文書を選別し、文書管理者に保存期間の延長を要請するとともに、選別した重要文書は、資料館関連施設で保管を行っている。

### 4-2 資料の整理・修復

資料館には、平成29年度末の時点で約18,600点の（学術及び文書）資料が収蔵されている。これらの資料の整理作業は、現在も行われており、平成29年度にはさらに761点の資料の整理が完了した。また、修復事業としては、「新刻日本輿地路程全図」の修復が、石川県立文化財修復工房に委託して行われ、平成29年3月引き渡しを受けた。この修復事業は、平成28年度に採択された、住友財団の文化財維持・修復事業助成金により実施されたものである。

### 4-3 平成29年度に移管または寄贈された資料

平成29年度に、移管または寄贈された資料は195件・481点に上った。特に、第四高等学校第14代校長伊藤武雄氏のご親族から、162件・429点の資料が寄贈された。伊藤武雄氏の肖像画など、多くの貴重な資料が含まれており、今後、展示してゆく予定である。

### 4-4 外部資金の獲得

近年、資料館のみならず大学全体の財政も余裕がなく、政府からの運営費交付金だけで前述のような資料館の多様な事業を実施していくことが、年々厳しくなっている状況にある。そこで、大学全体として科学研究費をはじめとする外部資金の獲得が必要となり、推奨されている。

平成29年度は、まず、第四高等学校の校長であった伊藤武雄氏のご親族の方から、前述の氏に関係する多くの資料の資料館への寄贈に際して、100万円の寄付があった。

また、資料館の松永篤知教員は、研究テーマ「金沢大学資料館所蔵考古資料の再評価」により、石川県博物館協議会職員研究奨励事業に採択された。助成金額は13万4千円であった。なお、本

研究の成果発表は、平成30年度石川県立歴史博物館で開催された石川県博物館協議会の総会で行われた。(文献7)

#### 4-5 授業等への協力

資料館では、平成28年度、以下のような授業等への協力を行った。

- ・人文学類の「地域概論」の一コマを担当、資料館の概要説明と展示室及び収蔵庫の見学を実施した。(138名、4月19日)
- ・学芸員養成課程の授業では、資料館の収蔵庫や資料整理などのバックヤードの見学を行った他、最も重要なテーマである学生企画展「バンカラ寮生類～金大寮史124年～」の実習作業の指導補助を行った。

#### 4-6 情報発信

現在の資料館の大きな使命の一つは、その存在価値を学内外に広く認めてもらうことである。また、情報発信によって博物館活動だけでなく、文書館としての活動等、金沢大学資料館の多様な活動を知っていただくことができる。継続実施している情報発信事業ではあるが、以下に主な事業について報告する。

・『資料館だより』(第53号：5月発行、第54号：9月発行、第55号：1月発行)

平成29年度の資料館だよりは、資料館の広報誌であり、資料館が実施している展示活動だけでなく、資料の移管・寄贈の状況、入館者数の情報、資料館に関する重要事項(平成29年度では、資料館資料の金沢市文化財への指定など)がある。また、資料館職員や資料館実習学生の感想などを紹介している。

・特別展図録『加賀藩校扁額～明倫堂・経武館』(9月発行)

平成29年9月1日から10月29日まで開催された特別展についての図録であり、展示物の概要だけでなく、多くの研究者による加賀藩校や新井白蛾及び前田土佐守直方などについて興味深い記事を掲載した。

・『金沢大学資料館リーフレット』

来館者に配布するために、日本語版及び英語版がある。

・『金沢大学資料館紀要 第13号』(3月発行)

第13号には、團野氏による金沢大学北溟寮歌における伝承寮歌についての論考、松永氏による金沢大学資料館考古資料の再整理についての論考、学生企画展の報告ならびに、前年度に続き資料館館長により、平成28年度金沢大学資料館事業報告が掲載されている。特に、事業報告については、今後継続的に発表することが重要であると考えられる。

#### 4-7 研修会等参加活動

資料館では、資料館職員の資料館業務についての知識や技術の向上及び他の博物館・文書館との情報収集や情報交換を目的として、様々な会議、学会および研修会などへ積極的に参加している。平成29年度の主な参加学会等について、以下に報告する。

・全国博物館館長会議

平成29年度第24回全国博物館館長会議が、7月12日に文部科学省講堂において開催され、全国

の博物館等から400名近くが出席し、資料館副館長が出席した。本会議は、日本博物館協議会・文部科学省・文化庁の共催で開催された。はじめに、文部科学省から博物館の現状と施策についての説明があり、財政が厳しい中、博物館事業数が増加しているとの報告があった。訪日外国人の数も特にアジアからの訪問者が増加していることも一因と考えられる。新しい動きとして、夜間開館や多言語化等の取り組みや、官民一体となる社会事業や持続可能な社会教育についての説明があった。また、様々な博物館支援事業が紹介された。文化庁からは、博物館の活動支援事業や資料の収集と活用に関する充実支援事業についての説明があった他、「これからの文化財の保存と活用について」の文化審議会諮問についての話があった。後半は、「地域に生きる博物館」の基調講演及び事例発表として「真似維持面とによる博物館機能強化」ならびに、「未来を見据えた博物館の取組」と題したパネルディスカッションがあった。

#### ・大学博物館等協議会第20回大会及び第12回日本博物科学会 山形大会

大学博物館等協議会第20回大会及び第12回日本博物科学会が平成29年6月22・23日に山形大学小白川キャンパスで開催され、本学からは資料館長他4名が参加した。まず、大学博物館等協議会では、山形大学附属博物館長ならびに山形大学長から挨拶があった。その後、シンポジウムに入り、山形大学附属博物館の佐藤 琴氏から、シンポジウム「大学収蔵資料の可能性を引き出す」について趣旨説明があり、続いて、国立歴史民俗博物館の三上喜孝氏の講演「大学収蔵資料の調査研究と社会的活用 -2つの石碑拓本の実践例から-」、及び九州大学総合研究博物館の三島美佐子氏の講演「移転で新たに見いだされた資料群の保全と活用」があった。引き続き、パネルディスカッション「大学所蔵資料の可能性を引き出してゆくために」が開催され、活発な意見交換がなされた。その後、大学博物館等協議会館長会議及び日本博物科学会理事会が開催され、決算と予算等についての協議がなされた他、第22回協議会の開催校を秋田大学と決定した。その後、大学博物館等協議会及び日本博物科学会の総会が開催された。翌日（6月23日）の日本博物科学会の研究発表会では、12件の口頭発表と8件のポスター発表があり、その後、山形城跡発掘調査現場の見学会があり、散会となった。

#### ・平成29年度博物館館長研修

文部科学省国立教育政策研究所主催の上記の研修会が、平成29年10月4日より6日にかけて、文部科学省を主たる会場にして開催された。金沢大学からは、副館長が参加した。10月6日は、オリエンテーションのあと、生涯教育局社会教育課による行政説明（博物館施設の動向）、特別講演「人を包みこむ博物館」（サントリー美術館元副館長：若林 覚氏）、グループ協議が行われた。10月7日は、講義（博物館による経営戦略・竹中大工道具館館長：赤尾建蔵氏、地域密着型の博物館・リスク・アーク美術館：山内浩泰氏、博物館における教育・新潟県立歴史博物館専門研究員：山本哲也氏）ならびに施策説明と事例研究（観光と博物館）が行われた。10月8日午前は、シンポジウム「人を包み込む博物館～地域に寄り添い愛される博物館へ～」が行われ、午後は特別プログラムとして上野動物園の施設見学が実施された。



## 5. まとめ

最後に、平成29年度の資料館活動についてまとめておく。すでに、言及したように、平成29年度の資料館展示室への入館者数は、8,990人を数え資料館開館以来の年間入場者数の記録（平成27年度：8,291人）を更新した。平成29年度は、ほぼすべての展覧会で入館者数が多く、質の高い展示と広報の効果があったことが証明されたと考えている。特に、コレクション展及び学生企画展の入館者数が、2,000人を上回ったことが大きく貢献している。また、2回のアウトリーチ展については、金沢城内河北門で開催された大学資料館写真展「よみがえる城内キャンパス」には9,447人、石川四高記念文化交流館で行われた金沢大学・北陸学院ウィン館・石川県立自然史資料館連携企画展「お雇い外国人と石川の近代教育 ～ランバート、ホイットニー、ウィンの仕事～」には3,041人の入場者があった。これらの入館者数及び入場者数の数値は、アウトリーチ展会場と金沢大学資料館の立地条件の違いが非常に大きく影響していると考えられる。このことは、今後も、市街地でのアウトリーチ展を続けることにより資料館の知名度を上げることができ、ひいては、郊外にある金沢大学資料館まで、足を運んでいただけるようになると期待される。

また、本稿には昨年と同様、展覧会活動以外の多くの活動について報告した。これら報告から、金沢大学資料館の使命が展示活動だけでなく、職員の努力により様々な活動を行っていることが理解いただければ幸いである。これらの活動は、今後、金沢大学埋蔵文化財調査センターや他機関との連携につながるとともに、金沢大学の社会貢献ならびにそのステータスの向上につながると確信する。今後は、文書資料についても展示活動やリファレンス活動を活発化させることが、資料館にとって重要と考える。なお、この事業報告については、筆者が中心にまとめたものであり、系統的にまとめられていないため、ここで報告した事業以外にも重要なものがある可能性がある。次回以降は、計画的に情報を残すとともに、他の博物館等の年報などを参考に、より充実した報告にしたいと考えている。

## 謝辞

本原稿をまとめるにあたって、金沢大学資料館職員・教員ならびに金沢大学情報部の皆様に、様々な情報を確認いただくとともに多くの助言をいただいたことを申し添える。この場を借りて、こころより御礼申し上げる。

## 引用文献

- 1、奥野正幸、「平成27年度金沢大学資料館展示活動報告」金沢大学資料館紀要、12号、21-29、2017年
- 2、奥野正幸、「平成28年度金沢大学資料館報告事業」金沢大学資料館紀要、13号、51-60、2018年。
- 3、第15回全国藩校サミット金沢大会 記念誌 編集・発行：第15回藩校サミット金沢大会実行委員会、2018年。
- 4、金沢大学資料館、平成29年度金沢大学資料館特別展「加賀藩校扁額～明倫堂と経武館～」図録、2018年。
- 5、金沢大学資料館、「お雇い外国人と石川の近代教育 ～ランバート、ホイットニー、ウィンの仕事」、金沢大学資料館だより、55、4、2018年。

- 6、金沢大学資料館、「特別講演会「新井白蛾とその時代」を開催」、金沢大学資料館だより、55、2、2018年.
- 7、松永篤知、「金沢大学資料館所蔵考古資料の再評価」、石川県博物館協議会々報、第82号、2-4